



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第420号

「ミサの意向とその奉納金について」

～意向を依頼するにあたっての共通認識～

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

●先日の2月12日、19日の地区集会では多くの方にお集まりいただき、有意義な時間となりました。ありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げます。今回、その地区集会の最後に説明した「ミサの意向とその奉納金について」に関し、あらためてご説明いたします。多くの方がまだよく理解できていないと思われるからです。まず、信徒がそれぞれの意向を携えてミサにあずかることはごく自然なことなので、ミサを捧げる司祭に意向を加えるようにと願うことは当然なことです。しかし、考えなければならないのは、意向を依頼することのできるミサはどのミサにおいてか、また、その意向を願う際に教会には奉納金を包む習慣があるという点をどのように理解しているかということです。そこで、そのことに関し、信徒間で、また信徒ではない方が意向を依頼する際の共通理解のために説明が必要であると判断いたしました。以下、説明。

①、教皇庁聖職者省令『ミサ奉納金に関する諸規則』（1991年2月22日）第7条（b）には「キリスト教生活における施しの修徳的重要性。これは、主イエスご自身がお教えになったことであり、ミサを捧げることに對してなされる奉納金は、施しの優れた形式の一つである」。また、（c）には「教会の善益への寄与。すなわち信者はミサ奉納金を寄進することによって、聖職者の生活を支え、かつ教会の使徒的活動の推進に貢献する」とあります。したがって、奉納金を包むことは信徒からの施しによって聖職者たちの生計を支えるためという精神に基づいており、それが司牧活動のために使われることになるということです。

②、納入する奉納金は施しという観点からして任意額です。

③、主日(日曜日)、主の降誕(12/25)、神の母聖マリア(1/1)でのミサは「自己に委ねられた民のため」という意向で

ふくれまんじゅうのこと	3面
旅の話(14)	4面
侍者だより	5面
幼稚園から	6面
委員会等報告	7・8面
お知らせ	8面

捧げなければならないため、それぞれの意向のためのミサは上記以外の日に挙げることになります。

④、教皇庁聖職者省令『ミサ奉納金に関する諸規則』(1991年2月22日)の主旨説明では「複数の意向と奉納金が合併されて、これらの意向のために1回のミサだけが捧げられることについては、いつでも自由である」とあるので、1回のミサのために複数の意向(例: 複数名の名を挙げる、死者と生者とに関する意向を併記することなど)は依頼する人の自由ということになります。

⑤、現在、主日ミサの奉献文の中、お知らせ等において意向を挙げていますが、依頼者は主日(日曜日)、主の降誕(12/25)、神の母聖マリア(1/1)のミサが<自己に委ねられた民のためのミサ>(Missa pro populo)として捧げられていることに留意して下さい(③を参照)。2023年3月現在、希望日を記入するための用紙を準備しているので、その用紙と奉納金用の封筒に意向を書き、主任司祭に手渡して下さいをお願いします。※希望日が重なった場合は別日に調整させていただくこともありますので、ご了承下さい。

福岡教区財政の見直しについて ～今後実施される教区財政改革について～

●去る3月5日、小倉教会において福岡教区財政の見直しについての説明会がありました。その内容について説明が必要なため、まずは紙面上で説明いたします(別途、説明会も行います)。

①、2022年12月12日付けの司教様からの手紙に書かれてあるように、今後、福岡教区において、より健全な財政基盤を作る必要があるため、教区全体を支えるための小教区からの分担金、司祭給与の在り方、教区全体の宣教司牧活動のための費用の捻出、預貯金資産運用について本腰を入れて見直していく必要があります。さっそく、この4月から実施されることがありますので以下を確認して下さい。

②、支出科目にある「教区分担金」(教区を支えるために毎年納める分担金)に関して、これまでは教会維持費、ミサ献金の全額の15%を納入していましたが、これに「祝日特別献金」(降誕祭や復活祭などの大祝日に呼びかけられる献金)を加え、全額の30%を納入することに変更されます。※4月より実施。なお、四旬節愛の献金、聖地のための献金、世界広報の日の献金、聖ペトロ使徒座への献金、世界難民移住移動者の日の献金、世界宣教の日の献金、宣教地召命促進の日の献金、世界こども助け合いの日の献金、カトリック献金日の献金は「指定特別献金」として、全額を教区本部へ納入することになっています。

③、小教区より支払っていた司祭給与を教区本部が支払う形となります。※4月より実施。

④、預貯金資産運用計画に協力するため、準備された規定に基づき、具体的にはまだ何も決まっていますが、小教区において当分は使用しない預貯金を預けることを計画しています。つまり、納骨堂管理費や建築献金などを教区本部に預け、資産運用に充てていただくようにします（預ける金額は任意で、元本保証。※配当金はなし）。

●大切なことは、一人ひとりが『福岡教区宣教司牧方針』を大きな柱とし、教区全体の運営と活動を充実化させるための改革が既に始まっていることを理解しなければならないということです。分担金を倍増させたのも、まず司祭給与を支払うことができない教会を支えるためであり、資産運用を行うのも、教区全体の宣教司牧活動の充実を図るためであることはもちろんですが、施設の建て替えや修理等ができない教会を支え、地域に根ざし、福音を宣べ伝えるための“出かけていく使命”にストップをかけないようにするためだと言えます。このまま黙っていても、銀行や信用金庫、郵便局などに預けている預貯金が増えることはありません。専門家のアドバイスのもとで資産を効率よく運用して資金を増やすことで、少なくともお金の心配はせずに済むようになるの見込みでのごとでしょう。確かに大きなリスクは伴いますが、だからこそ、専門家による助言に耳を傾け、全信徒へも説明を行いながら進めているのです。時代は移り変わります。今の時代を生きる教会は普遍的な部分はそのままに、意識を変え、大胆に変えていかなければならないことに敏感に取り組まなければなりません。わたしたちもその教会を形づくる“枝”として、互いに協力しながらキリストによって実りをつけていくことができますように。

長崎県五島列島の「ふくれまんじゅう」のこと



復活祭に配布される「ふくれまんじゅう」、五島のキリスト教徒の家で江戸時代から食べられているそうです。そこには五島のキリシタンの歴史と深い関係があるのです。

幕府の禁教令から逃れ、五島に移り住んだ「潜伏キリシタン」は、山を切り開きながら厳しい自然環境の下で暮らしを営み、迫害や拷問に耐えながら密かに信仰を語り継ぎ、信仰を守り続けてきました。辺境の地での貧しい生活の中「ふくれまんじゅう」は、信仰を隠すためパンの代わりに食べられていたそうです。

毎年8月15日は聖母被昇天祭として、「ふくれまんじゅうの祝い日」と呼ばれていたとも言われます。
(関連記事8面に記載)

旅の話 (14)

岩本光弘

もう一回ペルーの話が続けます。

私は26日の朝に石崎さんの家から集合場所に移動し東京と大阪から来た人たちと合流しました。調査団は翌日から東京組と大阪組と福岡組に分かれて行動することになり、私たち福岡組はリマ市周辺の人たちへの調査をすることになりました。

私たちがペルーに行ったのは、日本から強制退去された人たちが入管施設でどのような扱いを受けたのかを調査するためでした。主催は東京の入管問題調査会で、この会は今も活動をしています。出発前に調べていた人たちの所を訪ねて話を聞くことになりました。この調査では福岡から一緒に帰国したペルー人のジョンさんが手伝ってくれました。彼はリマ市の出身で自宅もリマ市にありましたので、彼のガイドと通訳で調査を進めることができました。

日本から帰国した後、加藤神父の所に相談に言った青年については加藤神父の司祭館に行って神父の通訳で話を聞きました。かなり問題がある話でしたが日系人や日本に行った人たちのことを加藤神父は心配して相談を受けたりしていることが分かり感銘しました。

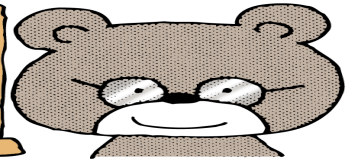
ある青年は大学を休学して日本に来ていました。この青年は結局オーバーステイで強制帰国させられたのですが、帰国後復学して物理の先生をしていました。彼からは学校に来てくれと連絡がありましたので学校に行くと終業式の日でした。11年制の学校なので、日本だったら小学一年生から高校2年生までが同じ学校にいました。11時から始まるというので少し早く行って学校見学をしました。一番びっくりしたのは先生たちが11時ころに通知表を書いていることでした。終業式も11時どころか13時になってやっと始まりました。

校門には鍵が掛かっていて、門番がいて生徒が途中で逃げ出さないようにしていました。式典ではいろいろな面白いことがありましたが、私たちも成績優秀者の表彰でプレゼンターとして登壇させられました。この時のことは大変面白くて、スライドに詳しく撮影して帰り各地でみんなに見てもらいました。私たちが会いに行った先生は2時半ごろに「私の担当は終わりましたので帰りましょう」というのです。「まだ終わってないのにいいのか」というと、「いいです」と言うのです。生徒だけでなく先生も途中で逃げ出すのにはあきれて大笑いしました。調査活動でリマ市内にいる帰国者の家を回りましたが、驚いたのは日本へ行った人たちのほとんどが貧しい人たちではなかったことです。この国の社会では中流以上の人たちが日本に来ていたことを知りました。日本へ渡航するにはかなりの資金が必要です。その資金が借金も含めて用意できる人だけが外国まで働きに出かけることができたのでした。

一番驚いたのは、石崎さんから「大みそかにパーティーがあるので行きましょう」と誘われて行ったときのことです。行った先の家が余りにも立派なので「誰の家か」と聞くと、ペルーで三番目に大きい銀行の社長の家だということでした。日本に出稼ぎに行った人の友人がこんなレベルであることも驚きでした。これは来日している他の国も同じのようです。

侍者だより

遠賀地区 パウロ・濱村 誠二



気が付けば、夜明けも少しずつ早くなっていると感じる今日この頃ですが、今四旬節であることはしっかり実感して毎日を感じたいと思っています。

今回は侍者の近況を報告したいと思います。ご存知のように、侍者として新たにベトナムの青年三人が加わっています。

一人目は前に侍者をしていただいたトゥアンさんの紹介でペトロ・ダウ ヴァン ナムさん26歳で、趣味はサッカーだそうです。二人目はパウロ・グエン ヴァン クアンさん30歳で、趣味は同じくサッカーです。そして三人目はペトロ・チャン スアン ザインさん24歳で趣味はバレーボールとのことです。三人に日本の好きな食べ物を聞きましたら「なんでも食べる」との返事でしたので、やはりベトナム料理にはかなわないのかな(笑)と思いました。

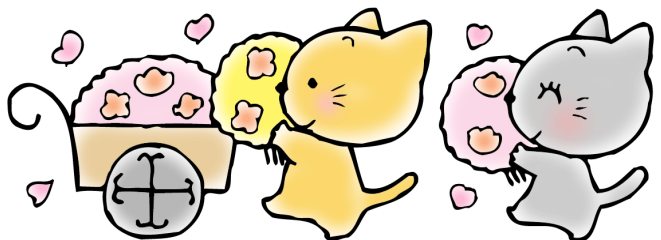
次の質問で、日本の教会についての感想を聞きましたら、教会が小さく信徒の数も少ないとのことでした。

谷口神父様に対してどのように感じているのかも聞きました。三人揃っての第一声は「とても熱心」とのこと。お説教されているときの言葉はよく分らない時が多いのですが、身振り、手ぶりで大切なことを信徒の皆さんに伝えたい気持ちが、侍者をして身近にいるのでよく理解できるといっていました。そして「とても優しい」とも答えてくれました。

最後に、通訳をお願いした女性アンナ・グエンティ ゴック フェンさんも含め四人に「毎日お祈りしていますか」と質問すると四人一斉に「はい、祈っています」と力強く答えてくれました。

私は彼らに一つ、お願いしました。それは日本のカトリック信者の青年のために毎日のお祈りの意向の一つに挙げてくださいます。一人でも多くの方が祈れば、いつか必ず教会の中に日本の青年とベトナム青年が多く集うようになりそれぞれの自分のカルバリエの道を励まし合い、歩みやすくなると信じています。

そのためにも今の奉仕者会(侍者)は土台になると思います。香部屋の中でも樽角兄妹、ベトナムの青年たちは足りないことは助け合ってミサの中で呼吸を合わせています。そんな小さな思いやりの心の清さ、美しさはミサの中で、神様への小さな捧げものとして香のように昇っていると思います。





水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 4月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉

年長児との思い出にお別れ遠足に行きました。年長児は風を揚げたり、遊具でたくさん身体を動かしたり、みんなとお弁当を食べて、楽しい一日になりました。お別れするお友達と大切な時間を過ごすことができ、子どもたちは大喜びでした。

また先日は、第60回卒園証書授与式が行われました。年長児33名が卒園しました。お御堂では、イエス様マリア様に見守られて、子どもたちは良い表情でした。幼稚園で経験したことを活かし、小学校でも実りのある日々になりますようにお祈りしています。



水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559

e-mail : ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉



暖かくなってきました。真っ青な空の中を、飛行機がキラキラ光りながら飛んでいます。「ヨーイドン」の駆けっこから始まり、滑り台でよく遊んでいます。12人くらいの子ども達が、階段から上ったり、太鼓橋や綱梯子から上ったり。8～10回も繰り返す子どもが、マリアだけで3人もいました。

「マリアに帰りますよ。」と呼ばれ、幼稚園の門の入口に集まり出すと誰かが座り込みました。次々に座り込んで、あれ！ミニ休憩時間になりました。「写真を撮りますよ。」と言うと、ポーズをとる子どももいます。寒さを気にせず、たくさん遊べる季節になりました！

TEL : 050 5212 7759

HP : 水巻町マリア子どもの家

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同

委員会等報告

2023年3月分

3月度小教区委員会 3月12日

1. 行事予定

- ・4月 6日(木) <聖木曜日>19時半～
主の晩餐を記念するミサ
- ・4月 7日(金) <聖金曜日>19時半～
主の受難の典礼(十字架の礼拝)
- ・4月 8日(土)<復活徹夜祭>19時半～
光の祭儀、ミサ
- ・4月 9日(日) <復活の主日>9時半～
- ・4月 16日(日) 小教区委員会
18時～ベトナム語ミサ。
- ・5月 28日(日) ミサ後～信徒総会

2. 議題

(1) 各委員会報告

①広報委員会

- ・「からしだね」の印刷する日を編集日の後日とすることにした。

②典礼委員会

- ・4月2日(日)から新しいミサ曲の歌唱を行うことにした。なお、この日の受難の主日の典礼で使用する枝の手配や聖週間の典礼における準備等に多くの方の協力をお願いしたい。今年の復活祭では個人で準備したイースターエッグの祝福を行う。

③営繕委員会

- ・駐車場に2つの外灯を設置した(足元を照らすためと防犯のため)。

④納骨堂委員会

- ・納骨室の一室を使用したいとの申し出があったため提供した。
- ・次の表現について違和感があり、変更することにする。「永代供養」⇒「永代使用」。

⑤冠婚葬祭の会

- ・冠婚葬祭で使用する備品管理のため、2階の空いた所に専用の用具棚を設置した。

⑥総務

- ・4月9日(日)復活の主日のミサ後に配布するため、「ふくれ饅頭」(※五島のキリスト教徒の間において、お祝い事に欠かせない饅頭)を200個ほど作る。

(2) 北九州地区での教区財政見直しについての説明会(3/5小倉教会)を受けて

- ・小教区分担金(教区へ納める分短金)が15%⇒30%へ(内訳:ミサ献金、維持費、祝日特別献金の合計より)。
- ・司祭給与が小教区⇒教区本部からの支払いに変更(事情により支払いが困難な小教区もある)。

- ・預貯金資産運用計画(小教区において当分使用しない預貯金を活用して資産を増やす計画)に協力するため、預貯金運用規定(元本保証、配当金をもとに教区運営の充実を図る等の規定)に基づき、当教会としては納骨堂管理費や建築献金を教区本部へ預けることが可能である(金額は任意)。

- ・「からしだね」4月号に説明会の内容を掲載し、並行して3月26日(日)ミサ後に信徒への説明を行う。

(3) 地区集会開催を受けて

- ・巡礼地の選定について。訪問先を決めるため、まず地区集会にて出された、およそ片道2時間以内で訪問できる巡礼地に限定し、い

くつかのスケジュール案を作成することにした。候補地は“秋月”(福岡県)、“萩”(山口県)、“山口ザビエル教会”(山口県)、“安心院トラピスチヌ修道院”(大分県)の4つ。
※4/9(日)までにスケジュール案をまとめ、信徒へのアンケートを作成・集計し、5/28(日)の信徒総会にて報告する。

(4)北九州地区宣教司牧評議会の開催と小教区の代表者選出について

・福岡教区宣教司牧評議会の設置と開催を受け、北九州地区でも3月26日(日)の14時より、小倉教会で第1回目の北九州地区宣教司牧評議会が開催される。そのため、各

小教区から1名の代表者の出席が必要となる(当教会からの代表者として上川直子氏を選出した)。

・福岡教区宣教司牧評議会と北九州地区宣教司牧評議会の規約の読み合わせを行ったが、信徒全員の理解も必要であるため、時宜を得て説明を行うこととする。

(5)パート給与について

・教区本部より、福岡県におけるパートタイマーの仕事を行う人への時給は¥900(最低賃金)となっているため、各小教区は至急、対応するよう要請が届いた。これを受け、水巻教会でも支給額を変更することとした。



★聖週間のお知らせ★

2日(日)(受難の主日【枝の主日】)

9時30分より

6日(木)(聖木曜日) 19時30分より

7日(金)(聖金曜日) 19時30分より

8日(土)(復活徹夜祭) 19時30分より

9日(日)(復活の主日) 9時30分より

なお、今年は例年通り、個人で準備した卵の祝別を行います。

★黙想会のお礼★

3月4・5日に黙想会がありました。今回の指導者シスター中野春香氏への謝礼として、42,020円集まりました。

3月5日に、シスターにお渡ししました。

★「ふくれまんじゅう」を作ります★

日時：4月8日(土) 9時～

お手伝いをしていただける方は聖堂後方にある「ふくれまんじゅう 協力者」用紙に、お名前を記入してください。

*出来上がった「ふくれまんじゅう」は、4月9日(日)復活の主日 皆さんにお配りします。

人-ひと

【転出】お元気で!

◇吉永 篤司さん

誠剛さん

昌子さん

赤間地区から古賀教会へ